

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2024年 2月 20日

事業所名: わくわくクラブ 千里丘校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	0	・個別療育かつ同時刻に複数児童がいる場合はパーティションによる枠組みを行っている。 ・個別療育かつ同時刻に複数児童がいる場合はパーティションによる枠組みを行っている。	・引き続き実施していく
	2	職員の配置数は適切である	7	0	・個別1人に付き1人職員がつけるように対応している。	・引き続き使用していく
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	0	・物の置き場などは視覚化しており、スケジュールは文字と絵を配置して児童に示している。	・引き続きわかりやすい環境設定を目指していく
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0	・極力刺激を少なくし、安全に運動などが出来るように床に反発性のあるマットを設置している。	・引き続き実施していく
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	1	・逐一、児童や保護者から得た情報を共有し、児童に関する目標を設定の参考にしている。	・引き続き実施していく
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	・保護者の意向に関して、可能かつ利用児童にとって無理のないように対応している。	・引き続き実施していく
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	・評価表の集計結果はホームページで公表している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	4	・第三者機関による評価はないものの、社内の本部スタッフによる点検が行われており、指摘事項について改善を図っている ・相談支援員さんの訪問を積極的に受け入れている。	・第三者評価に関しては今後の検討課題としていく
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	・年2~3回系列事業所全体での研修を行っている。	・引き続き職員の資質向上を図るため定期的実施していく
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0	・面談や振り返りから保護者からの意向を聞き、それを元に支援計画を作成している。	・引き続き継続して行う

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>療育ごとに取り組んだ内容の5段階評価を行っているが、スタッフごとに評価の乖離が窺える。</li> <li>個人の観点から判断しているところが大きく、標準化とまでは言えないと思っています。</li> <li>評価に対する大きなバラつきが無いように注意が払われているものの、その調整に膨大な時間がかかっている</li> </ul>	・引き続き活用していく
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>項目に沿って、支援内容を計画している。</li> </ul>	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援計画に沿って療育を行っており、その時の状態に応じて適宜対応をしている。</li> </ul>	・引き続き実施していく
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>プログラムの立案、プログラム時の役割分担を行っている。</li> <li>児発の集団レッスンでは行われていると思います！</li> </ul>	・今後も様々なアイデアを出し合いながら決定していく
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>固定しないように季節やその月ごとに内容を変えたり、各校舎のプログラムを共有し、固定化をなるべく避けている。</li> </ul>	・今後も様々なアイデアを出し合いながら決定していく
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童発達支援は基本個別活動のため、個別向けに支援計画を作成している。</li> </ul>	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	・必ず朝礼か昼礼の場で児童やその日の活動に関する共有を行っている。 ・全て議事録に残し、欠勤者へも情報が漏れない様にしている。	・引き続き継続していく
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	0	・終了後、児童や保護者の様子や言動などを共有している。 ・個人記録の詳細を毎回データで残している。	・引き続き継続していく
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	・必ず記録を取って、スタッフ間で共有できるようにしている。 ・HUGシステムを使用し、日々の支援の詳細を記録している。	
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0	・モニタリングや振り返りを含め、支援の方向性を検討している。	・引き続き行っていく
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0	・基本児発管が対応しており、必要であればスタッフも同席している。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	0	・各市の支援センターや相談支援員などと情報共有している。	・引き続き継続していく
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	4	1	・医療的ケアが必要な児童は受け入れを行っていない。 ・現在、該当者はいないが、地域との連携は定期的に行っている。	・今後こういったケースに備えて環境を整える
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	3	2	・医療的ケアが必要な児童は受け入れを行っていない。 ・現在、該当者はいない。	・今後こういったケースに備えて環境を整える
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	0	・必要に応じて施設の見学を行い、情報共有を行っている。 ・電話や訪問等で情報共有し連携を取っている。	・引き続き継続し連携を深めていく
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	0	・必要に応じて施設の見学を行い、情報共有を行っている。 ・電話や訪問等で情報共有し連携を取っている。	・引き続き継続し連携を深めていく
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1	・支援事業所に療育の観察を行っていただき、助言・研修を受けて頂いている。 ・定期的に研修に参加し連携している。	・どのスタッフも参加していけるよう工夫する
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	6	・現在、行ってはいないが、地域と連携した活動を今後取り入れていくことを検討している。	・コロナ収束後は交流の機会を検討していく
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	3		・どのスタッフも参加していけるよう工夫する
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	・療育の振り返りごとに発達の状況や課題を伝えている。	・引き続き継続し、共通理解を深めていけるよう努める

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	3	・主に置いた支援は行っていないが、保護者からの困りごとに対しての対処・解決法を伝えている。	・プログラム化や定期的にも実施も今後視野に入れ検討していく
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0	・契約時に伝えており、利用中に質問があれば対応している。	
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0	・支援計画作成後に、変更点があれば変更を行い、同意を得るように努力している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	・保護者からの相談に応じ、事業所側からも聞き取りを行っている。	・引き続き実施していく
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	0	・保護者からの相談に応じ、事業所側からも聞き取りを行っている。	・コロナ収束後は交流の機会を設けていきたい
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	・保護者からの相談に応じ、事業所側からも聞き取りを行っている	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	・HPを使用して、月に一度事業所の取り組みを更新している。	・引き続き継続して行う
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7	0	・スタッフ以外が触れられないように事務所内に保管し、施錠を行っている。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	・どんな人にも分かりやすくかつ丁寧に対応を行っている。	・引き続きより意思疎通出来るよう努める
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	4		・コロナ収束後は交流の機会を設けていきたい
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	0	・児童には災害時の訓練を行っており、スタッフ間でも災害、感染症の研修を行っている。	・周知出来る方法を検討し実行していく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	2	・児童には災害時の訓練を行っており、スタッフ間でも災害時の研修を行っている。	・どのような方法なら可能か探っていく
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	1	契約時に体質に関する聞き取りを行い、服薬の変化も適宜聞き取りを行っている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	1	・契約時に体質に関する聞き取りを行っている。 ・児童発達支援では食事提供を行っていない。食べ物を提供する際は事前に保護者の方へアレルギーの確認を行っている。	・指示書がある場合には共有してもらいその内容に沿って対応していく
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	・教室間での共有を行っている。	・まずは日々のヒヤリハットをしっかりと記録し残していく
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	・年に数回の研修を行っている	・引き続き継続して行う
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	0	・対象となる児童の保護者に説明し、了解を得ている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。